阿部 幹 (あべ・かん)

1、プロフィール

小説家。八戸市鮫町に生まれ育ち、故郷に題材を求め、執筆を続けている。伝承される墓獅子等の鮫神楽や祠・浜等の伝説をモチーフに、当時の資料を検証し作品化している。

<生没>

1934(昭和9)年4月30日 ~ 2024(令和6)年11月23日

<代表作>

小説「鮫の神楽・小説佐藤連平」(伊吉書院)・「葉莢の海」(伊吉書院)
「おむら」(木村書店)・「箆旗を立てた男」(木村書店)・「葦毛崎」(木村書店)・「お園」(木村書店)・「呪縛の旅」(金入)

<青森との関わり>

八戸市鮫町に生まれる。八戸高校卒業後、小学校教員となる。故郷を題材にした小説を発表した。

2、作家解説

昭和9年4月30日、八戸市鮫町に生まれる。八戸高校を卒業後、昭和28年4月に小学校教員となる。組合運動に参加。小中高の同級生には画家の久保田政子がいる。自宅で陶芸もしている。

昭和31年、詩誌「あるふぁ」(昭和31年2月~32年4月「アポロ」→昭和32年7月~33年1月「義眼」と改題→昭和33年5月~38年10月「あるふぁ」と改題→昭和62年9月~平成3年4月「あるふぁ」復刊、通巻49号で終刊)同人。幹菜一の筆名で詩を発表。大久保景造・るいけまさと等で、創刊時は20代だった。

昭和 59 年、デーリー東北新春短編小説に「合掌の舞」で二席入選。昭和 60 年に第九回石坂文学奨励賞に「狂い潮」で入選。デーリー東北新春短編小説に「窯を焚く」で一席入選。幹 菜一の筆名で発表。平成 2 年、鳥羽市マリン文学賞に「潜士の源三」で入選。平成 5 年・平成 13 年の東奥日報社の新春短編小説に「春祈祷」・「芽」を発表。

平成 12 年 10 月 18 日に小説「鮫の神楽・小説佐藤連平」(伊吉書院、序文が三浦哲郎、カバー絵が久保田政子「権現様」)、平成 14 年 10 月 20 日「薬莢の海」(伊吉書院)・平成 15 年 9 月 20 日「おむら」(木村書店)・平成 17 年 5 月 1 日「筵旗を立てた男」(木村書店)・平成 18 年 8 月 10 日「葦毛崎」(木村書店)・平成 21 年 9 月 25 日「お園」(木村書店)を発表。平成 23 年 1 月 1 日「彼岸崎」(金入)を発表。平成 23 年 7 月 30 日小説集「鮫の神楽」(金入)を発表。平成 24 年 7 月 1 日創作集「北の潮」(金入)を発表。平成 25 年 2 月 23 日に自伝的小説「呪縛の旅」(金入)を発表し、第九回青森県文芸賞受賞。平成 27 年 9 月 12 日「潜吾の行方」(金入)を発表。平成 29 年 7 月 28 日「恵比須浜異聞」(木村書店)を発表。平成 31 年 4 月 25 日に随想集「母が防波堤」(木村書店)を発表。

平成 22 年度八戸市文化賞受賞。

平成 17 年から 23 年までデーリー東北新春短編小説の選考委員。昭和 46 年に設立された「鮫神楽保存会」の事務局を担当。平成 9 年に設立された「鮫町の自然を守る会」の発起人。平成 4 年 9 月から鮫町振興会の広報誌「さめまち」の編集責任者で、令和 6 年 12 月現在 166 号である。

3、資料紹介

○『鮫の神楽・小説佐藤連平』

図書

2000(平成 12 年)10 月 18 日

215mm×155mm

江戸末期、鮫の回船問屋の佐藤嘉右衛門の養子になり、江戸の文化に触れ、鮫神楽の台本を編んだ、実在した人物である佐藤連平の半生を克明に描いている。地道な研究で事績の欠落を補填し、想像力を加えて作品を構築している。